

令和 4 年 2 月 28 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
671480	
選定番号	122

代表者 校園名： 大阪市立北鶴橋小学校  
 校園長名： 光井 栄雄  
 電 話： 06-6741-6706  
 事務職員名： 服部 朋美  
 申請者 校園名： 大阪市立北鶴橋小学校  
 職名・名前： 教頭 川崎 菜穂子  
 電 話： 06-6741-6706

## 令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		GIGA School構想を生かしたCollaborative learning ～ 新しい生活様式の中での主体的・対話的で深い学びの実現 ～		
3	研究目的		○新しい生活様式の中での授業デザイン力の育成 ○ICT機器を有効活用してた新しい生活様式の中での主体的・対話的で深い学びのあり方について研究する。 ○ICT機器の活用研修を定期的に行う。 ○上期のICT機器の活用研修について、他校の教員のオンラインでの参加を受け入れ、大阪市全体に広げる。 ○年6回のGIGA School構想に鑑みた授業研究会を行う。 ○実践事例集を作成し、取り組みを大阪市全体に広げる。 ○先駆的な取り組みについてのオンライン講演会を企画・運営し、大阪市全体に拡大する。 ○取り組みを通して、児童のICT機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図る。		
4	取り組んだ 研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5pt イント)			
		4月 研究授業の計画を立てる。 ICT機器活用研修（研修プログラムの作成） 5月 児童アンケート（事前アンケート） 6月 学年別ICT活用実技研修 第1回授業研究会・研究討議会 7月 ICT活用実技研修会（Swayの活用） 8月 ICT活用実技夏季研修会（Teamsの機能：投稿とClassnotebook） 9月 第2回授業研究会・研究討議会 第3回授業研究会・研究討議会 10月 学年別ICT活用実技研修 11月 第4回授業研究会・研究討議会 第5回授業研究会・研究討議会 12月 ICT活用実技研修会（Formsの機能） 1月 ICT活用実技研修会（兼オンライン公開研修会：デジタルスクラップブックづくり） 2月 第6回授業研究会・研究討議会 東京学芸大学附属小金井小学校のオンライン研究会に参加し校内伝達研修を実施 活用事例集の作成 Teamsによるオンライン研究発表会（事例報告と講演会） 児童アンケートの実施（事後アンケート） ICT活用実技研修会（課題機能の使い方）			

	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。						
5		日程	令和4年2月8日	参加者数	約23名			
		場所	多目的室（本校教職員）・Teamsによるオンライン（他校教職員）					
	備考							
	他校からの参加者は13名							
	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。							
	<p><b>【見込まれる成果1】</b>        ○GIGA School構想実現に向けた教員のICT活用スキルが向上し、授業において効果的に活用した授業デザインができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定資格 MIE(Microsoft Innovative Educator)の7割以上の習得</li> <li>認定資格 MIEE(Microsoft Innovative Educator Expert)の2名以上の習得</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定資格 MIE(Microsoft Innovative Educator)に12名の認定 (70.6%)</li> <li>認定資格 MIEE(Microsoft Innovative Educator Expert)に3名の認定</li> </ul> 全員がオンライン授業並びにハイブリッド式授業を行うことができるほか、電子黒板やタブレット端末を活用した授業を日常的に行えるようになった。授業デザインのみならず新型コロナウィルス感染症により出席停止となった児童に対する対応についても迅速に対応できるようになるなど、オンラインやオンデマンドを活用した学習も行うスキルを身につけてきた。							
	<p><b>【見込まれる成果2】</b>        ○児童のICT活用スキルが高まり、新しい生活様式の中でも効果的に活用しながら積極的に「主体的・対話的で深い学び」を展開することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートにおいて「タブレット端末を使った学習は楽しいですか。」という質問に対し肯定的な回答を行う児童の割合を事前アンケートより上昇させる。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> 児童アンケート結果「タブレット端末を使った学習は楽しいですか。」という質問に対し、全校児童の中で否定的な回答を行う児童は117名中5名であり95.7%の児童が肯定的な回答を示すなど、意欲的に取り組むことができていた。タブレット端末を活用した授業デザインにも積極的に取り組むことにより児童の活用に対する違和感も少なくなっている。							
6	<p><b>【見込まれる成果3】</b>        ○教職員のICT機器を有効活用した授業デザイン力を高めることにより、GIGA School構想に挙げられた児童のICT活用スキルを高めることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートにおける「タブレットを使って資料を作ったり、自分の考えを伝えたりできますか」という質問に対する肯定的な回答の割合を事前アンケートより上昇させる。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> 年度当初はタブレット端末を活用した資料作成に取り組んだことがある児童はほとんどなかつたが、一年を通して活用した授業デザインを積極的に行ってきましたところ「タブレット端末を使って資料を作ったり、自分の考えを伝えたりできますか」という質問を行った3年生以上の84人中、否定的な回答をする児童は6名しかおらず83.9%の児童が肯定的な回答をしていました。							

	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p>○実践事例集を作成することで、教職員のICT機器を活用した授業実践力、授業デザイン力を高めることができる。</p> <p>〔検証方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートにより「研究を通して、ICTを活用した授業デザインスキルが高まったと思いますか」という発問に対し、肯定的な回答の割合を9割以上にする。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>年間6回の授業研究会や実技研修会を行うことによって、活用機会が大幅に増えている。「研究を通して、ICTを活用した授業デザインスキルが高まったと思いますか」という問い合わせに対して全教職員が肯定的な回答を行うなど、教職員自身の実感も伴ったものとなっている。また、MIEEを中心に普段から実践に対するコミュニケーションがとられるようになり、Teamsの教職員チームを活用して情報交換を行うなど、一人一人のアイデアが個人のものとしてだけでなく学校全体的に広がりを見せるものとなっている。</p> <p><b>【見込まれる成果5】</b></p> <p>○作成した実践事例集を配付することで、研究を大阪市の教育の発展に生かすことができる。</p> <p>〔検証方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や発表会に参加し、実践事例集を配付した他校の教職員へのアンケートの「実践事例集は今後の授業作りに活かされると思いますか」という問い合わせに対する肯定的な回答の割合を8割以上にする。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研修会や発表会での回答においても参加者全員から肯定的な意見をもらうなど、実践自体が特別に高度なものではなく、大阪市のスタンダードな活用例を示すことができたと考える。Swayを活用したデジタル活用集にすると実用例についての追加・更新が容易になるので、まとめ直して配付できるようにしていき、さらに活用しやすいものとしたい。</p> <p>デジタルのよさや大阪市の新しいデジタル環境をうまく使いながら、日々増え続けている本校の実践事例を他校からでも簡単に活用できるようなシステムを構築したい。</p> <p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>全教職員がGIGAスクール構想にのっとり、一人一台タブレットを有効活用した授業デザインができるようになってきた。児童のICT活用スキルにおいても、実践から出てきた課題をもとに、6年間を通じた系統立てた学習計画を立てるなど、これからの社会Society5.0を生き抜くために必要なスキルを学校全体で習得できるようなカリキュラムを作ることができた。</p> <p>また、MicrosoftからMIEE（全国で大学教授を含め300人程度）に3名認定されるなど先進的な取り組みを進めるだけでなく、全教職員が取り組みについて前向きに取り組んでおり、Microsoft Showcase incubator）に認定されるなど学校全体での取り組みとしても評価されるようになっている。</p> <p>研究についてもMIEE認定教員が主軸となりながら実技研修だけでなく、普段から活用についての議論が行われるなど、意欲的に取り組んでいく雰囲気ができてきている。今後は、実践をいかに広めていくかが課題である。SwayやOneDriveを活用したデジタル実践事例集や研修動画などを作成し、公開していくたり、実技研修をオンライン公開したりするなどして、大阪市全体の取り組みの推進につながるような動きをしていきたい。</p> <p><b>《代表校園長の総評》</b></p> <p>学校全体として、新しい社会を生きる力の育成のためのスキルを高める授業デザインの改善に意欲的に取り組もうとする教職員集団が育ってきている。特に、得意としている教職員だけが行っていくのではなく、苦手としている教職員も一緒にになって学校全体を変えていくこうとする雰囲気になってきているところが素晴らしいと思う。一人一台タブレットを有効活用した授業デザインに積極的な教職員も多く、さらにMIEE認定教員を増やし、様々な外部からの情報や実践を取り入れながらさらに実践が深まってくることを期待している。また、ぜひShowcase school認定をめざして、実践や研修を積極的に発信し、スタンダードモデルとして発信していくようにしていってほしい。</p>
6	成果・課題